



# 能登やさしいこめづくり情報

## は種編

### 育苗日数は1か月以内!

令和3年3月  
能登米振興協議会  
能登米生産者協議会  
JAおおぞら

## 1 浸種 (浸種開始時の水温に注意)

◆浸種1日目の水温は、必ず10~15℃に保ってください。

- ・種子の目覚めには、浸種直後(8~24時間)の水温が重要です。
- ・水温が10℃以下の低水温で浸種を開始すると、浸種期間中に水温が10℃以上になっても、発芽が揃わない場合があります。(右の図を参照)

24時間低水温 → その後適温	×
24時間適温 → その後低水温	△
24時間適温 → その後適温	○

◆発芽揃いを良好にするため、低温浸種(10℃以下)は行わないでください。

- ・浸種場所は、外気のあたらない屋内や屋外でも、風が当たらない場所を選ぶなどの工夫をしてください。
- ・高水温(20℃以上)では、十分に吸水しないうちに発芽が始まり、発芽ムラの原因となるので注意してください。

◆浸種水量は種籾の2倍以上とし、2日に1回程度水を交換してください。

- ・薬剤吹付種子では、最初の3日間は種子消毒期間のため、水を交換しないでください。

【表】種籾に対する水量

種籾重量	3kg	5kg	10kg	15kg	20kg	40kg
水量(リットル)	6	10	20	30	40	80

◆浸種の積算温度(水温×浸漬日数)は100℃以上としてください。

- ・浸種期間は積算温度で100℃以上を確保してください。浸種期間が不足すると発芽が不揃いになる場合があります。
- ・浸種期間中は籾の状態をよく観察してください。終了の目安は、籾殻の上から胚が白く透けて見えるようになった頃です。

【表】浸種日数の目安

水温	浸種日数
10℃	10日
15℃	7日

芽出しの注意



袋内の外側と内側とで幼芽・幼根の伸びがちがいがちです。種籾は袋に半分程度にして、催芽そろいを良くしましょう。

## 2 催芽 (必ず実施して発芽を揃える)

- ・催芽では発芽に最適な温度を与え、発芽を揃えましょう。
- ・芽を1mm程度以上に伸ばさないよう注意します。

【表】適切な催芽の目安

催芽温度	催芽程度	催芽日数	注意事項
30℃	1mm	1.5~2.0日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芽を伸ばしすぎると、先端が傷つき、発芽ムラの原因となります。</li> <li>・芽が伸びすぎた場合は10℃以下の冷水に浸し、伸長を止めてください。</li> </ul>

ハト胸

伸びすぎ



## 3 は種 (田植えの予定に合わせて計画的に!!)

◆は種日は田植え予定に合わせて設定し、健苗育成を心がけましょう。

- ・は種から田植え日までの育苗期間が長くなると、老化苗となってしまいます。浸種を早く開始すると、は種まで途中で中断できませんので注意しましょう。
- ・遅い時期のは種では、育苗期間が高温のため徒長苗になりやすくなります。ハウスの温度管理、育苗日数に注意しましょう。

【表】田植え予定日と適正な育苗日数の目安

田植時期	5月1日	5月5日	5月10日	5月20日	5月30日
浸種	3月25日	3月30日	4月5日	4月22日	5月3日日
は種	4月5日	4月9日	4月16日	5月2日	5月13日
田植	5月1日	5月5日	5月10日	5月20日	5月30日
育苗期間	27日間	27日間	25日間	19日間	18日間
出穂期	7月31日	8月2日	8月4日	8月9日	8月14日
成熟期	9月10日	9月11日	9月15日	9月20日	9月27日

◆は種量は乾籾120~150g/箱としましょう。

- ・は種量は品種に応じて適正な量にしましょう
- ※近年話題となっている高密度は種育苗には、専用の田植え機が必要です。通常の田植え機で厚播きの苗箱を使うと植付け本数過剰となります。

【表】主要品種の適切なは種量

品種	乾籾重(g/箱)	催芽籾重(g/箱)
コシヒカリ	120	156
能登ひかり	140	182
ひやくまん穀	150	195

◆床土量やかん水量は、使用する培土に合わせてみましょう。

- ・培土は種類によって床土・覆土量やかん水量が異なりますので注意してください。
- ※適切な使用方法について最寄りのJAまでお問合わせください。
- ・苗立枯病防止のため、「ダコニール1000」の500~1000倍液を500mL/箱、散水処理してください。 ※タフブロックを使用した場合は、ダコニール1000を使用しない。

## 4 出芽 (高温出芽による徒長・病害の発生に注意)

◆出芽器を用いた加温出芽では適温の30℃に設定しましょう。

- ・芽を伸ばしすぎると、軟弱で病気に弱くなります。
- ※芽を光にあてると、伸長を止めることができます。
- ・32℃以上の高温になるとリゾープス菌などが繁殖し立枯病の原因となります。

【表】加温出芽の目安

出芽温度	出芽日数	芽の長さ
30℃	2~3日	8~10mm程度

◆平置き出芽(無加温出芽)では出芽揃いまで保温資材で被覆保護しましょう。

- ・保温資材で昼夜被覆し、高温日には30℃以下になるようにビニールハウスの換気を行いましょう。
- ・およそ5日程度で出芽が終了します。その後は慣行の緑化作業を行ってください。

# めざせ『能登ひかり』の収量アップ！

県内で生産されている『能登ひかり』の大部分は、奥能登地域で作られています。食味や品質は高く安定してきましたが、収量については、本来の『能登ひかり』のポテンシャルを十分発揮しきれていない状況です。

なお、試算上では、収量をコシヒカリより60kg/10a向上すると、コシヒカリ以上の収益確保も期待できます。

令和2年産から、食味や品質は維持しながら、『能登ひかり』の収量向上に取り組みましょう！

## 【収量向上の3大ポイント】

### その1 適正な栽植密度（分けつの確保・品質の維持）

- ◎70株/坪で植付けましょう。
  - ・能登ひかりは『穂重型』品種のため、分けつしにくい品種です。
  - ・栽植密度を上げることで1㎡あたりの茎数が早期に確保され、穂揃いがよくなります。また、気候の影響を受けにくくなります。

### コラム～能登ひかりにおける70株植えの実証結果～

平成30年に実施した能登ひかりにおける70株植えの実証結果について紹介します。

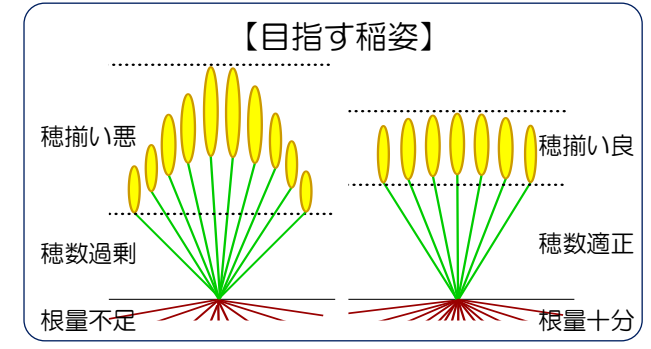
弱勢穂数とは、30粒以下の穂の数

栽植密度 (株/㎡)	穂数 (本/株) (本/㎡)		弱勢穂数 (本/株)	くず米率 (%)	収量 (kg/10a)	乳心白 (%)
70	17	384	3	2.8	625	15.9
53	19	332	6	4.6	515	19.8

- 栽植密度を高めたことにより… (H30年度 輪島市町野町尾山地区での実証結果より)
- ・弱勢穂数が少なく、優良茎が確保されたため、穂揃いは良くなりました。
  - ・㎡当たり籾数が多くなっても登熟歩合が低下せず、千粒重が向上したことから疎植の場合より増収しました。
  - ・乳白粒、腹白粒の発生割合が疎植の場合に比べて、やや少なくなりました。

### その2 水管理（バランスの良い穂相への誘導・稲体の活力維持）

- ◎早期優良茎確保
  - ・5月上旬までに田植え
  - ・細植え（3～4本/株）
  - ・3cmの浅植え
  - ・3cmの浅水管理
- ◎適正な中干しの実施
  - ・田植後1ヶ月までに開始
- ◎幼穂形成期以降の水管理
  - ・飽水管理、刈取り直前までの通水



### その3 土づくり（品質・食味の向上）

- ◎リン酸・カリの補給
  - ・初期成育確保・登熟向上
- ◎ケイ酸の補給
  - ・病害抵抗性・高温回避・登熟向上・倒伏軽減
- ◎深耕の実施（作土層15cm以上）
  - ・土壌の養分保持力の増加、根量の増加



★一発肥料だけではリン酸・カリが不足するので、土づくり資材を施用してリン酸とカリを補給しましょう。

### コラム～能登ひかりにおける早生 DX28 の肥料試験結果～

令和元年に実施した穂肥増量型基肥一発肥料「早生一発くん DX28」の肥料試験の結果を紹介します。

穂肥増

- 実証区 早生一発くん DX28 (窒素28%-リン酸13%-カリ9%) 35kg
- 対照区 新早生一発くん (窒素24%-リン酸13%-カリ9%) 35kg

区分	穂数 (本/㎡)	1穂籾数 (粒/本)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	収量 (kg/10a)	整粒 (%)	玄米タンパク質含有率 (%)
実証区	397	71.9	90.3	24.2	626	57.6	6.8
対照区	395	76.9	83.9	23.5	599	58.8	6.8

- 穂肥増量型基肥一発肥料を使用することにより…
- ・出穂期の葉色が維持され、登熟の向上により品質を落とさず収量向上効果が見られました。
  - ・生育後半までの肥効と追加穂肥の省略化が期待されます。

